

5-5

デイサービスにおける個別機能訓練の取り組み

セラバンド（ラバーバンド）による機能訓練の効果について

デイサービス

機能訓練

青梅市高齢者在宅サービスセンター大洋園

主任相談員 臼田英生

センター長 中村隆夫

東京都青梅市今井5-2440-141

介護職員 金子由香

TEL 0428-31-3614

E-mail takinoue@taiyoen.or.jp

FAX 0428-31-3642

URL <http://www.taiyoen.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

昭和58年社会福祉法人一石会設立。平成8年、特別養護老人ホーム大洋園に併設し通所介護運営開始。現在は同市内にて3箇所のデイサービスセンターを運営しており、「安全、安心、笑顔のある介護」を基本にサービスを行っております。

〈取り組んだ課題〉

介護保険制度改正に伴い、個別機能訓練について体制加算から変わり、計画、評価を各利用者に行う事となった。そこで機械等を用いず、コスト面、各施設共通に出来るもの、個別にも集団でもできるものと考え、機能訓練を行える方法としてセラバンド（ラバーバンド）を使用する事とした。また、セラバンドを使用したことによって機能訓練の効果が得られるか測定、検証を行った。

- ・ セラバンドを使用した機能訓練の効果検証
- ・ セラバンドの実施方法
- ・ 利用者に対しての個別機能訓練への意識付け
- ・ 職員へのセラバンドの知識、効果などの意思統一
- ・ 利用者に対してのセラバンド使用への理解・同意

〈具体的な取り組み〉

- ・ 各施設、各介護度別に分け、セラバンドの効果を実施、統計を取る。
- ・ 3ヶ月を一区切りとし、実施前と実施後のデータを取り、比較する。
- ・ 職員へセラバンドの運動の方法、知識を習得させる。
- ・ 利用者にセラバンドを使った運動を行うことへの承諾、理解を得る。
- ・ 一日の流れのなかでセラバンドを使用する時間を決め、運動を行うことへの定着化を図る。
- ・ 10M歩行、握力、お手玉投げの測定を毎月行い、機能訓練の統計を計る。

〈活動の成果と評価〉

- ・ 介護度の軽い利用者に対して、握力、10M歩行などの機能向上が見られた。
- ・ レクリエーションの延長で楽しく機能訓練を行うことが出来、興味をもって取り組むことができた。
- ・ 認知症のある方には機能訓練の理解ができず、セラバンドの効果があまり見られなかった。
- ・ 利用者、職員間にもセラバンドの浸透がうまくいかず、理解をしてもらうのに時間がかかった。
- ・ 3ヶ月という短い期間での測定だった為、効果が大きく見えてこなかった。
- ・ 介護度の軽い方は効果がみられ、重介護者は思うようにセラバンドの運動ができず、効果があまり見られなかった。

〈今後の課題〉

- ・ 理解の低い認知症の利用者に対しての機能訓練をどのように行っていくか。
- ・ 成果が上がった方の新たなセラバンドの方法や、介護度の高い利用者への運動など、ADLに合わせたグループ分けなど考えていかななくてはならなかった。
- ・ 今後も継続していけるよう研修などを行い、指導力向上や指導方法の統一を図る必要がある。